

5年ぶりの116円台に上昇した米ドル円

リスクオンの円安と米金利上昇の米ドル高が重なる

2022年1月5日

米ドル円は年前半に上昇余地あるが、後半は下落する可能性

米ドル円が2017年1月以来の116円台まで上昇しました。世界的に新型コロナウイルス感染が再拡大していますが、オミクロン株の重症化率が低いとの見方から景気減速懸念は高まらず、リスクオンに傾いて金利が上昇したことが背景にあります。リスクオンの円安と米金利上昇の米ドル高が重なったと言えます。

主要国が厳しい感染対策をとらず、景気減速リスクが高まらなければ、さらに円安・米ドル高が進む可能性はあります。ただ、コロナ禍から急回復した景気がさらに加速する可能性は低いので、リスクオンや金利上昇は限定的でしょう。日米5年国債金利差と米ドル円の連動性【図表右】から試算すると、金利差が1.5%ポイント（以下、簡便に%、1月4日現在1.44%）なら米ドル円は118円程度（傾向線+2標準偏差）、1.6%なら119円程度（同）が上振れ余地と考えられます。

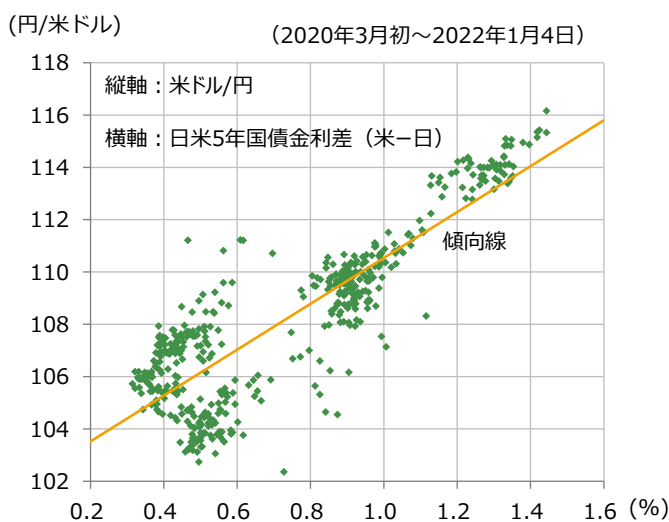
昨年12月の米ISM製造業景況感指数では、詳細項目の入荷遅延指数と価格指数が明確に低下したことから、供給制約によるインフレ圧力が弱まり始めたと考えられます。また、昨年3月の米大型経済対策によりインフレ圧力が高まった効果の反動で、今年3月以降は前年同月比でみたインフレ率が低下する可能性があります。その場合、米国の利上げ観測は今以上には強まらず、米金利上昇による米ドル高は進みづらいでしょう。また、米中間選挙がある年は政治リスクから年後半に米ドル円が下落しがちです。これらから、米ドル円は今年前半に上昇余地がある一方で、後半は下落する可能性が高いと想定しています。

日米5年国債金利差と米ドル円



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

日米5年国債金利差と米ドル円



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント